

平成30年度
全国学力・学習状況調査

～留萌市における結果の概要～

I	調査の概要	1 P
II	教科調査結果の概要	2 P
III	質問紙調査結果の概要	13 P
IV	おわりに	21 P

平成30年12月

留萌市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

3 調査の内容

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査

ア 国語A、算数・数学A～主として「知識」に関する問題

○身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

○実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

イ 国語B、算数・数学B～主として「活用」に関する問題

○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

○様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など

ウ 理科～平成27年度以来3年ぶりに実施。また、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に出題。

② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習習慣、生活の諸側面等に関する調査

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査実施日

平成30年4月17日(火)

5 調査を実施した学校・児童生徒数

	小 学 校		中 学 校	
	実施学校数	児 童 数	実施学校数	生 徒 数
全 国(公立)	19,386 校	1,030,031 人	9,597 校	967,196 人
北海道(公立)	1,012 校	39,617 人	589 校	39,683 人
留 萌 市	5 校	136 人	2 校	135 人

6 調査結果に関する留意事項

(1) 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

(2) 本調査の結果においては、平均正答率、平均正答数等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

Ⅱ 教科調査結果の概要

1 平均正答率から見る学力の状況の概要

(1) 平成30年度調査各教科の平均正答率(%)と全国・北海道との差

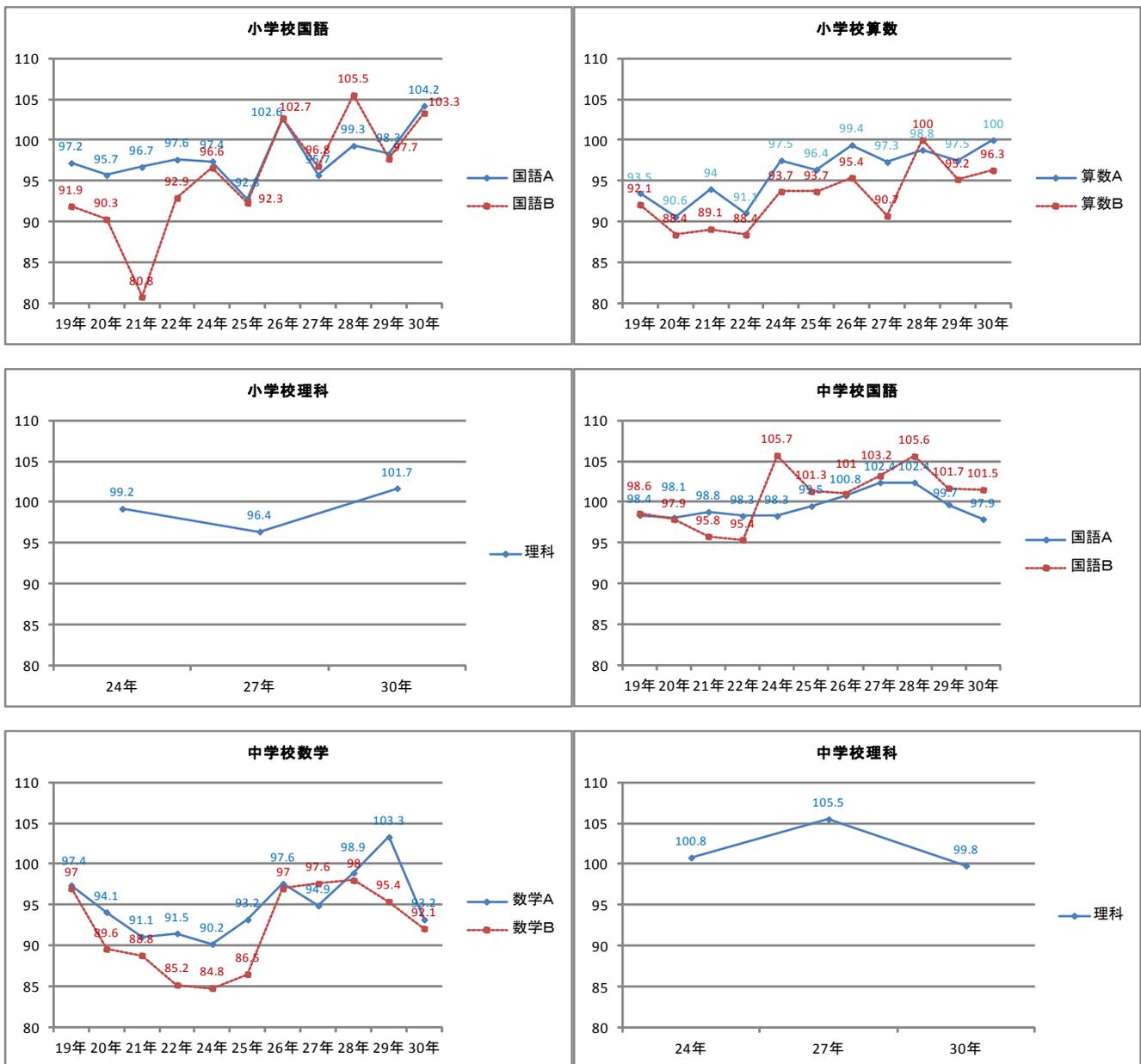
	小 学 校					中 学 校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
留 萌 市	73.7	56.5	63.5	49.6	61.3	74.5	62.1	61.6	43.2	66.0
北 海 道	70.1	52.7	62.2	48.7	58.8	76.6	61.2	64.9	45.8	66.7
全 国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
北海道との差	+3.6	+3.8	+1.3	+0.9	+2.5	-2.1	+0.9	-3.3	-2.6	-0.7
全国との差	+3.0	+1.8	±0	-1.9	+1.0	-1.6	+0.9	-4.5	-3.7	-0.1

(2) 全国の平均正答率を100としたときの12年間の推移

※調査問題が毎年異なり、平均正答率を単純比較できないため、全国の平均正答率を100とする。

(市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)

※H23は、道独自で調査を行ったことから、国との比較ができないため非掲載とする。

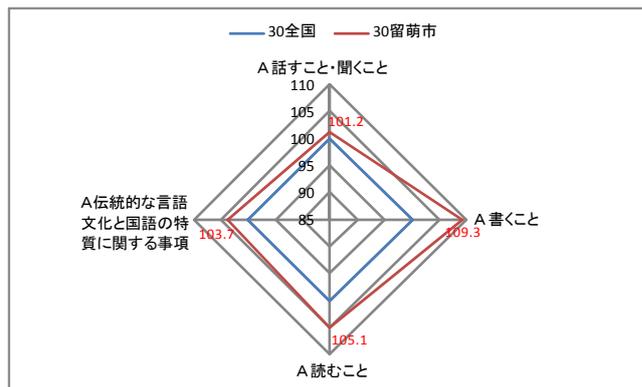


- ・ 全国の平均正答率を上回ったのは小学校国語A，小学校国語B，小学校理科，中学校国語Bであり，小学校算数Aは同じである。また，小学校算数Bは北海道の平均正答率を上回っている。
 - ・ 全国の平均正答率を100としたときの12年間の推移から，小学校では国語A・Bともに26年度以降は全国の平均正答率を上回るか，下回っても5ポイント以内である。算数Aは24年以降は全国平均正答率を4ポイント以内で下回っていたが，今年は同じになる。
- 一方，中学校では国語Bは24年度より全国平均正答率を上回っている。数学A・Bともに全国平均正答率を下回っている（29年数学Aは上回る）が24年度以降，改善傾向であったが，今年は差が広がった。

2 小学校国語A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	8.8問／12問	73.7%
北海道	8.4問／12問	70.1%
全国	8.5問／12問	70.7%

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



(1) 「領域別正答率」の傾向

- ・ 「書くこと」の領域は，全国と比べ相当高く，「読むこと」の領域も高い傾向である。

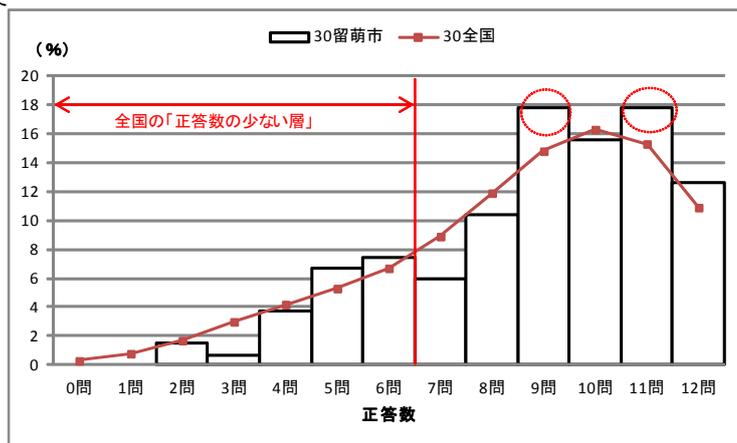
(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ・ 12問中，正解した児童数が最も多かったのは，全国が10問に対し，9問，11問である。

(3) 設問別の正答率の概要

- ① 平均正答率が全国以上の設問数

(H26)	9／15問
(H27)	4／14問
(H28)	9／15問
(H29)	4／15問
(H30)	8／12問
- ② 平均正答率が全国以下の設問から



領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	相手や場面に応じて適切に敬語を使う	【話を聞いている様子の一部】の空欄に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する	50.4%	56.0%

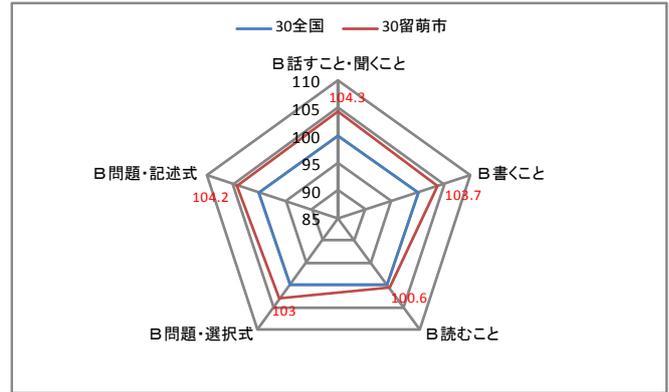
国語Aにおいて，留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 敬語を使う際には相手と自分との関係やその場の状況を意識して，適切に使うことが求められる。敬語を適切に使うことができるようになるためには，様々な場の状況で敬語を使うことになれることが重要である。また，相手と自分との関係を意識しながら敬語を使うことに慣れるように指導することが大切である。

3 小学校国語B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	4.5問／8問	56.5%
北海道	4.2問／8問	52.7%
全国	4.4問／8問	54.7%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)



(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

- ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域は、全国と比べやや高い。
- ・選択式・記述式の問題については、全国と比べやや高い傾向である。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

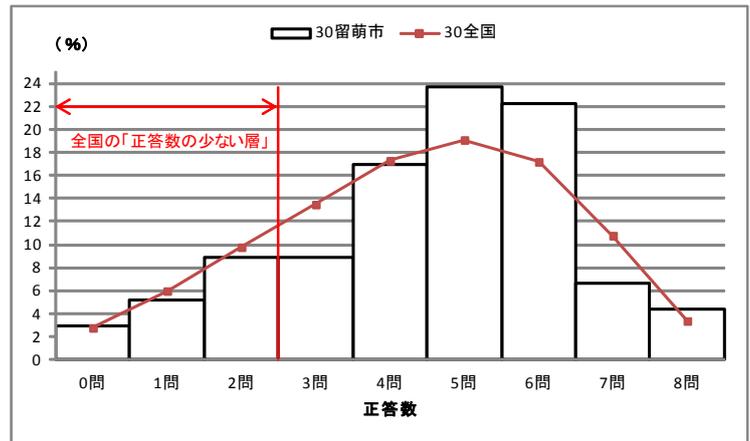
- ・8問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国と同様に5問である。

(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

(H26)	8／10問
(H27)	3／9問
(H28)	7／10問
(H29)	6／9問
(H30)	6／8問

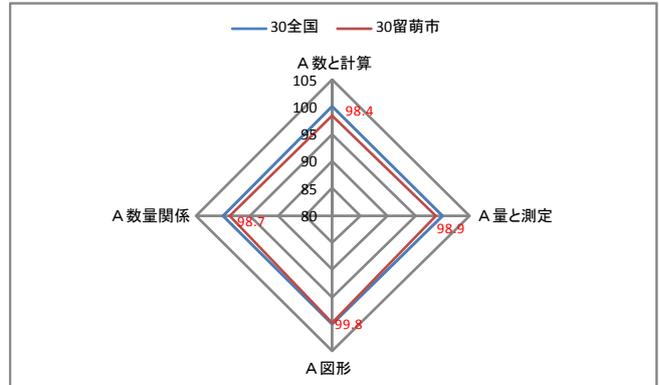
②平均正答率が全国以下の設問から特に取り上げる設問なし



4 小学校算数A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	8.9問／14問	63.5%
北海道	8.7問／14問	62.2%
全国	8.9問／14問	63.5%

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



(1) 「領域別正答率」の傾向

- ・すべての領域が、全国と比べほぼ同様である。

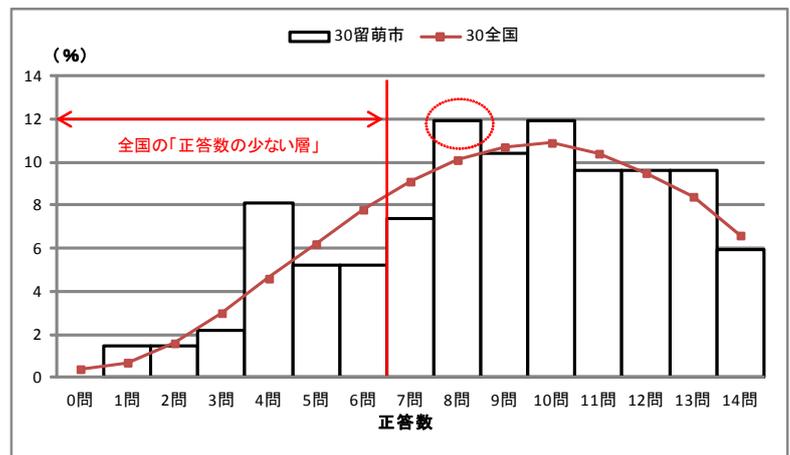
(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ・14問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が10問に対し、8問、10問である。

(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

(H26)	8／17問
(H27)	7／16問
(H28)	5／16問
(H29)	5／15問
(H30)	6／14問



②平均正答率が全国以下の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数量関係	除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している	針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く	59.3%	62.9%
数と計算	小数の除法の意味について理解している	答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ	36.3%	39.9%
図形数量関係	直径の長さと同周の長さの関係について理解している	円の直径の長さが2倍になったとき、同周の長さが何倍になるかを選ぶ	49.6%	55.6%

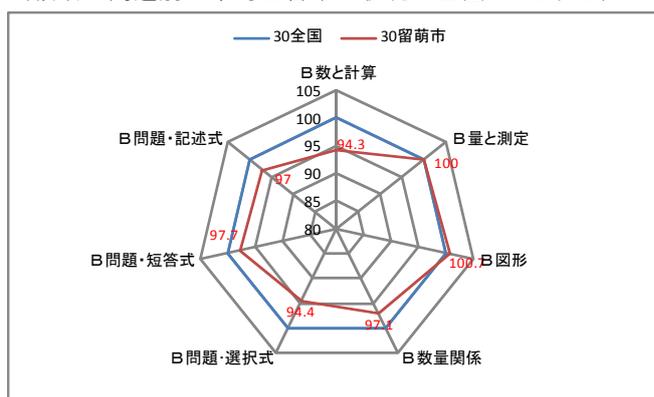
算数Aにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 問題場面における二つの数量の関係を理解できるようにすることは、問題を解決する上で大切である。一方が変わると他方もどのように変わるかを捉える活動が大切である。また、例えば、実感的に理解できるようにすることも考えられる。
- 図や数直線などを用いて、数量の関係を的確に捉え、立式することができるようにすることが大切である。
- 作業的・体験的な活動を通して、直径の長さと同周の長さの関係について理解できるようにすることが大切である。

5 小学校算数B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	5.0問/10問	49.6%
北海道	4.9問/10問	48.7%
全国	5.1問/10問	51.5%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

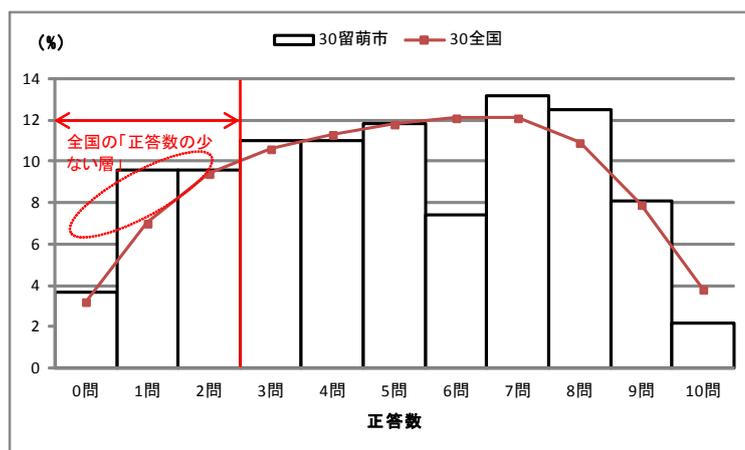


(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

- ・「数と計算」の領域は、全国と比べ低い傾向である。
- ・選択式の問題については、全国と比べ低く、記述式はやや低い傾向である。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ・10問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が6問、7問に対し、7問である。
- ・正答数が0問から2問の児童数が全国と比べ、割合が高くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

(H26)	4/13問
(H27)	1/13問
(H28)	7/11問
(H29)	3/11問
(H30)	4/10問

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答数	全国正答率
数と計算 数量関係	示された考えを解釈し条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる	「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す	55.1%	62.7%
数と計算	折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる	4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ	56.6%	66.5%

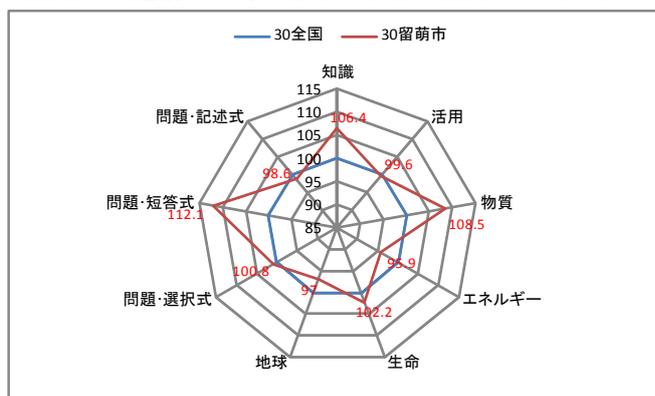
算数Bにおいて、留萌市の児童への指導にあたっては

- 算数の問題場面における数量の関係を帰納的に考察し、見いだした数量の関係を式を用いて表現することができるようにすることが大切である。
- 日常生活の問題の解決のために、事象から規則性を見だし、変化や対応の関係を基に、合理的、能率的に処理し、条件に合う事柄について適切に判断することができるようにすることが大切である。

6 小学校理科

	平均正答数	平均正答率
留萌市	9.8問／16問	61.3%
北海道	9.4問／16問	58.8%
全国	9.6問／16問	60.3%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

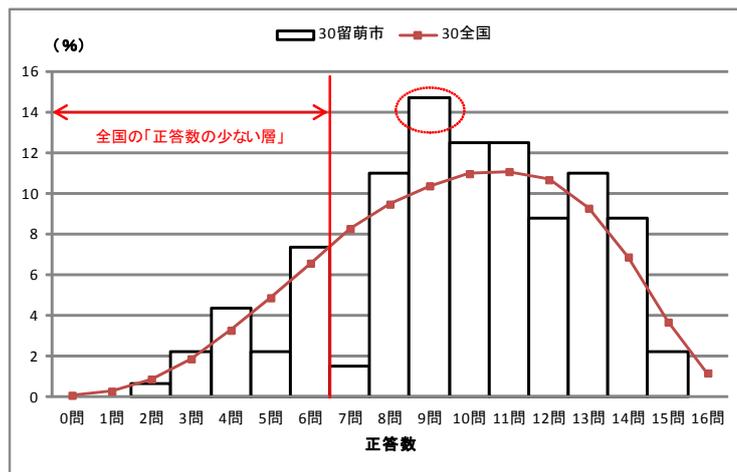


(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

- ・「知識」に関する問題については、全国と比べ高い傾向にある。
- ・「物質」の領域は、全国と比べ相当高い傾向にあるが、「エネルギー」の領域は、やや低い傾向である。
- ・短答式の問題については、全国と比べ相当高い傾向にある。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ・16問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が11問に対し、9問である。



(3) 設問別の正答率の概要

- ①平均正答率が全国以上の設問数
 (H27) 4/24問
 (H30) 9/16問
- ②平均正答率が全国以下の設問から

枠組み・領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
「知識」 地球	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している	流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ	79.4%	83.6%

「活用」 エネルギー 地球	太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合うものづくりに適用できる	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを学ぶ	34.6%	41.9%
---------------------	--	--	-------	-------

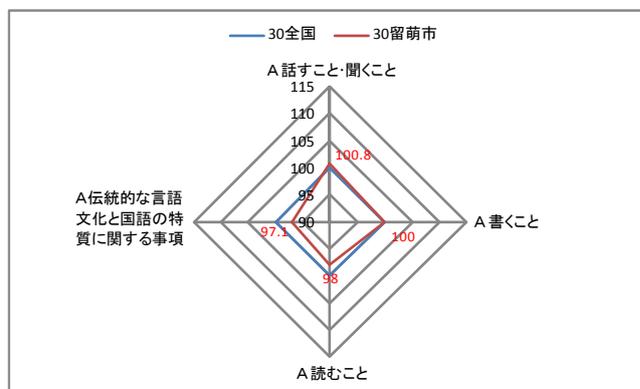
理科において、留萌市の児童へ指導の改善にあたっては

- 科学的な言葉や概念を理解することができるようにするためには、言葉の意味を的確に捉えることができるように実際の自然の事物・現象に適用して説明する場合を設定することが大切である。
- 学んだことを基にしたものづくりへの適用ができるようにするためには、ものづくりの目的や獲得した知識をものづくりにどのように活用するかを明らかにするとともに、できたものが目的に合ったものになっているかを振り返り、設定した目的に対して、計測し、制御する学習活動を保障することが大切である。

7 中学校国語A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	23.8問/32問	74.5%
北海道	24.5問/32問	76.6%
全国	24.3問/32問	76.1%

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)

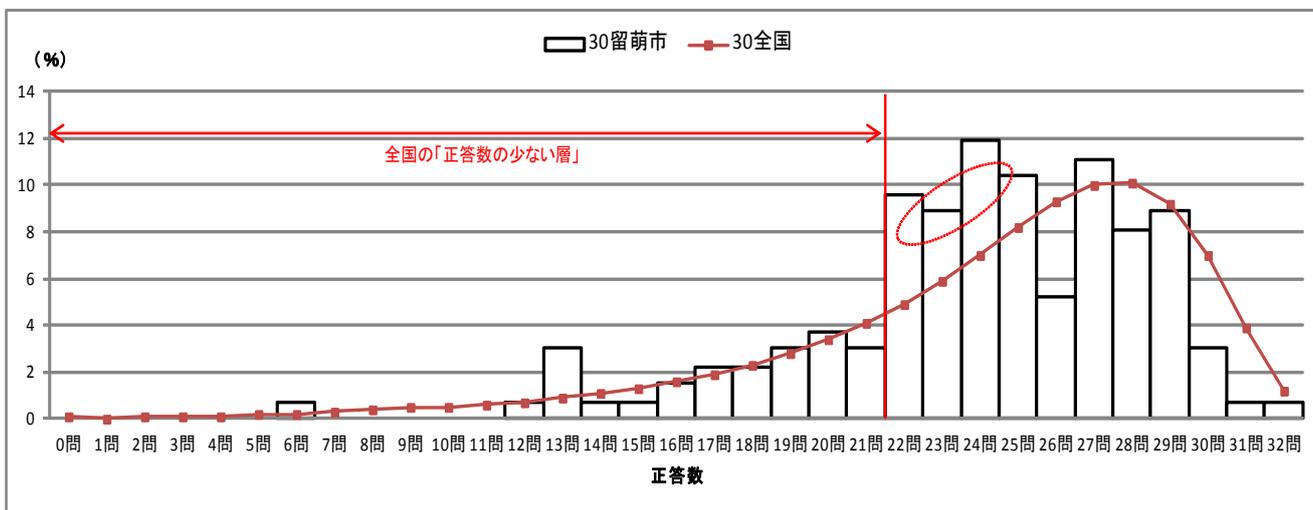


(1) 「領域別正答率」の傾向

- ・すべての領域は、全国と比べほぼ同様の傾向である。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ・32問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国は28問に対し、24問である。
- ・正答数が22問から25問の生徒数が全国と比べ、割合が高くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

① 平均正答率が全国以下の設問数

(H26)	16/32問	(H27)	22問/33問	(H28)	27問/33問
(H29)	18/32問	(H30)	14問/32問		

② 平均正答率が全国以下の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	適切な語句を選択する(彼は <u>せき</u> を切ったように話し始めた)	22.2%	29.2%

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	適切な語句を選択する（わたしが健康になったのは、 <u>ひと</u> に母のおかげです）	57.8%	65.4%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く	9.6%	22.3%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉える	『韓非子』の中の語句の訳を抜き出す（いはく）	83.0%	91.1%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（とほさざるなし）	48.1%	63.0%

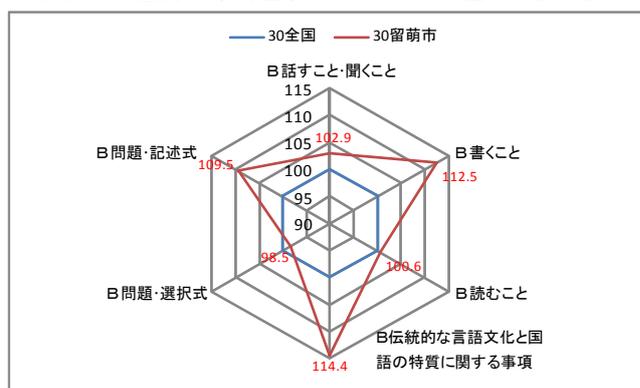
国語Aにおいて、留萌市の生徒への指導にあたっては

- 語感を磨き語彙を豊かにするためには、語句の意味を辞書や資料集などを用いて確認するだけでなく、話や文章の中で実際に使用するよう指導することが大切である。また、同音異義語については、読み方だけでなく、漢字一字一字の意味を確認しながら熟語の意味について考えることが大切である。
- 文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるように書くことができているかを常に吟味するように指導することが大切である。
- 現代語訳や語注などを手掛かりにして古典を読む際には、言葉のまとまりや意味に留意しながら内容を捉えることができるよう指導することが大切である。
- 文語のきまりについては、言葉の意味を考えながら音読したり、音読を聞いたりすることを通して古典特有のリズムを味わいながら理解するように指導することが大切である。

8 中学校国語B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	5.6問／9問	62.1%
北海道	5.5問／9問	61.2%
全国	5.5問／9問	61.2%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

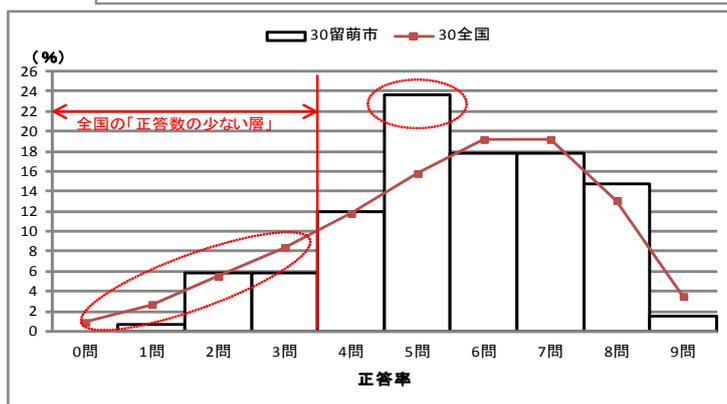


(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

- ・「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全国と比べ相当高い傾向である。
- ・記述式の問題については、全国と比べ相当高い傾向である。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ・9問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が6問、7問に対し、5問である。
- ・全国の「正答数の少ない層」に含まれる生徒数の割合が全国と比べ、低くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

(H 2 6)	5 / 9 問	(H 2 7)	7 / 9 問	(H 2 8)	9 / 9 問
(H 2 9)	5 / 9 問	(H 3 0)	6 / 9 問		

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
話すこと	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる	文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する	59.3%	68.2%

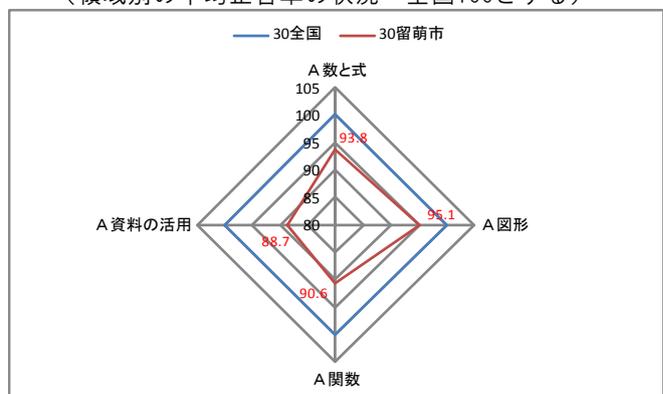
国語Bにおいて、留萌市の生徒への指導にあたっては

- 文学的な文章を読む際には、登場人物の言葉や行動が話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのように関わっているかを考えながら読むように指導することが大切である。その際、複数の場面や描写を相互に結び付けながら、それぞれの言動の意味を考えることができるように指導することが重要である。

9 中学校数学A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	22.2問 / 36問	61.6%
北海道	23.4問 / 36問	64.9%
全国	23.8問 / 36問	66.1%

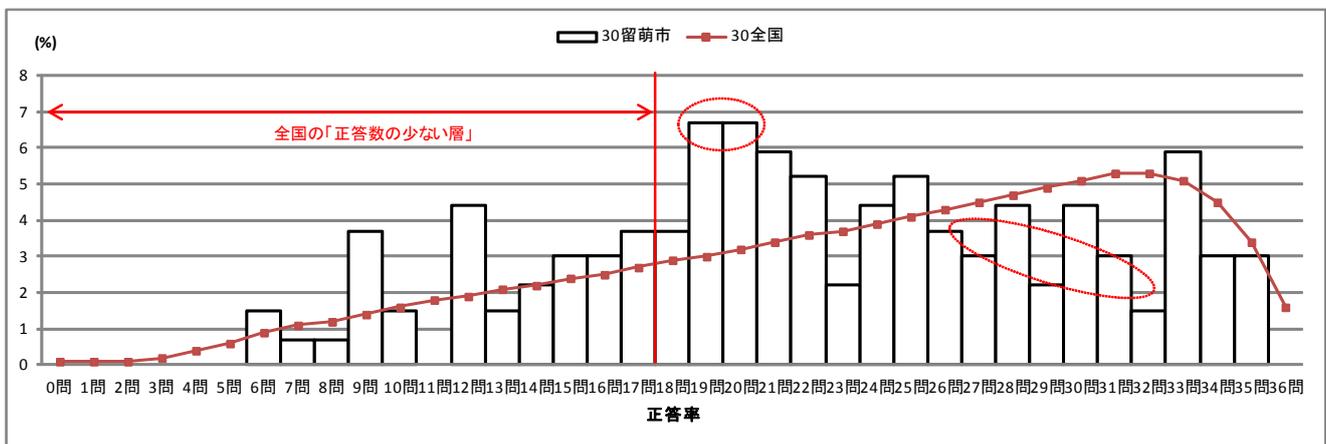
(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



(1) 「領域別正答率」の傾向

- ・すべての領域が全国と比べ低く、特に「関数」「資料の活用」は相当低い傾向である。

(2) 「正答数分布」のグラフの傾向



- ・36問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が31問、32問に対し、19問、20問である。
- ・正答数が26問から32問の生徒数の割合が全国と比べ、低くなっている。

(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

(H 2 6)	18 / 36 問	(H 2 7)	7 / 36 問	(H 2 8)	17 問 / 36 問
(H 2 9)	23 / 36 問	(H 3 0)	9 / 36 問		

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と式	絶対値の意味を理解している	絶対値が6である数を書く	56.3%	69.0%

図形	四角錐の体積はそれと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $\frac{1}{3}$ であることを理解している	底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ	44.4%	57.6%
図形	長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることを理解している	長方形で成り立ち、ひし形でも成り立つことを選ぶ	65.2%	78.2%
関数	一次関数 $y = ax + b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連づけて理解している	一次関数 $y = -2x + 6$ が表すグラフを選ぶ	41.5%	56.3%
資料の活用	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	28.1%	40.2%

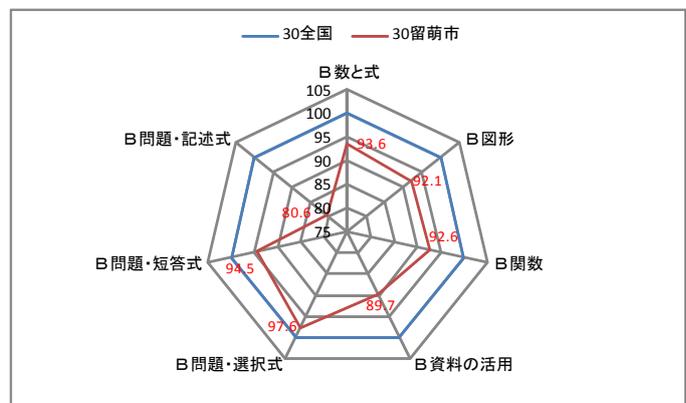
数学Aにおいて、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては

- 数直線における原点からの距離が絶対値であることを理解できるように指導することが大切である。
- 柱体と錐体の体積の関係を理解できるようにするために、柱体の体積と錐体の体積の関係を予想し、正しいかどうかを、模型を用いた実験による測定を行って確かめる場面を設定することが大切である。
- 正方形、ひし形、長方形が平行四辺形の特別な形であることを理解できるようにするためには、それぞれの定義に基づき、「平行四辺形になるための条件」などを手掛かりとして、正方形、ひし形、長方形、平行四辺形の間関係を論理的に考察し、整理できるように指導することが大切である。
- 一次関数 $y = ax + b$ の a が傾き、 b がグラフの切片であることを理解できるように指導することが大切である。その際、 a の値と b の値をそれぞれ変えたときのグラフの様子を視覚的に捉える活動を取り入れることが必要である。
- 実験を通して、ある試行を多数回繰り返したときに、ある事象が起こる回数の全体に対する割合が近づいていく値として、確率の意味を実感を伴って理解できるように指導することが大切である。

10 中学校数学B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	6.0問／14問	43.2%
北海道	6.4問／14問	45.8%
全国	6.6問／14問	46.9%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)



(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

- ・すべての領域は、全国と比べ低く、「図形」「関数」「資料の活用」は相当低い傾向である。
- ・記述式の問題については、全国と比べ相当低く、短答式の問題も低い傾向である。

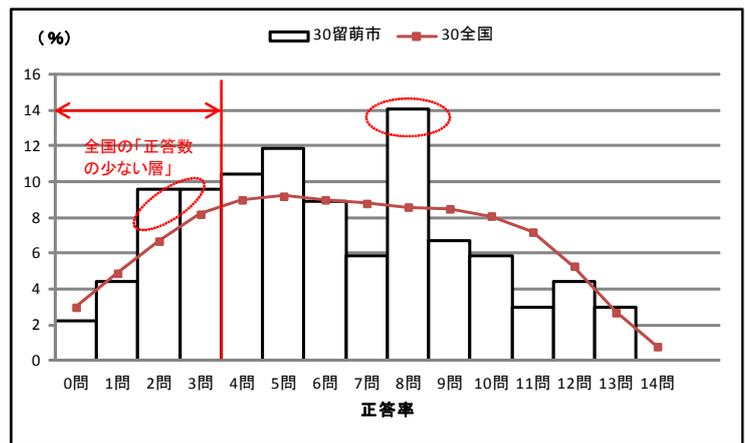
(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ・14問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が5問に対し、8問である。
- ・全国の「正答数の少ない層」の正答数2問、3問の割合が全国と比べ、多くなっている。

(3) 設問別の正答率の概要

① 平均正答率が全国以上の設問数

(H 2 6)	7 / 15問
(H 2 7)	5 / 15問
(H 2 8)	7 / 15問
(H 2 9)	6 / 15問
(H 3 0)	1 / 14問



② 全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
資料の活用	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する (記述式)	27.4%	36.2%
数と式	3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することができる	計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の倍数になるかを求める	58.5%	68.3%
図形	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する (記述式)	36.3%	42.3%

数学Bにおいて、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては

- 不確定な事象の起こりやすさについて判断し、その理由を説明できるようにするために、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、確率を用いて的確に説明する場面を設定することが考えられる。
- 生徒自らが帰納的に調べることで成り立つと予想される事柄を見だし、それを演繹的に推論することで、成り立つ事柄を数学的に表現することができるように指導することが大切である。
- 新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論を明確にして表現する活動を取り入れ、付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導することが大切である。

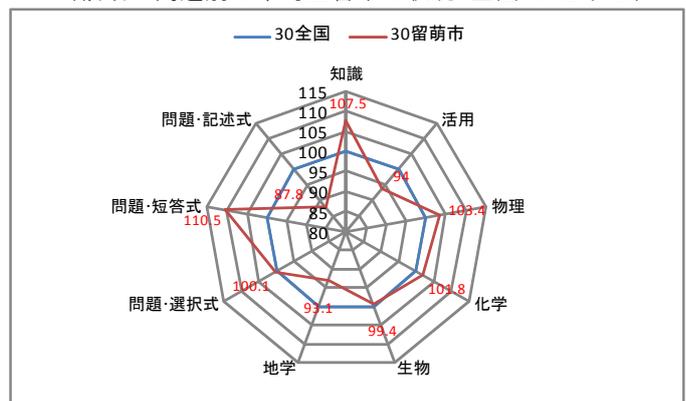
11 中学校理科

	平均正答数	平均正答率
留萌市	17.8問 / 27問	66.0%
北海道	18.0問 / 27問	66.7%
全国	17.9問 / 27問	66.1%

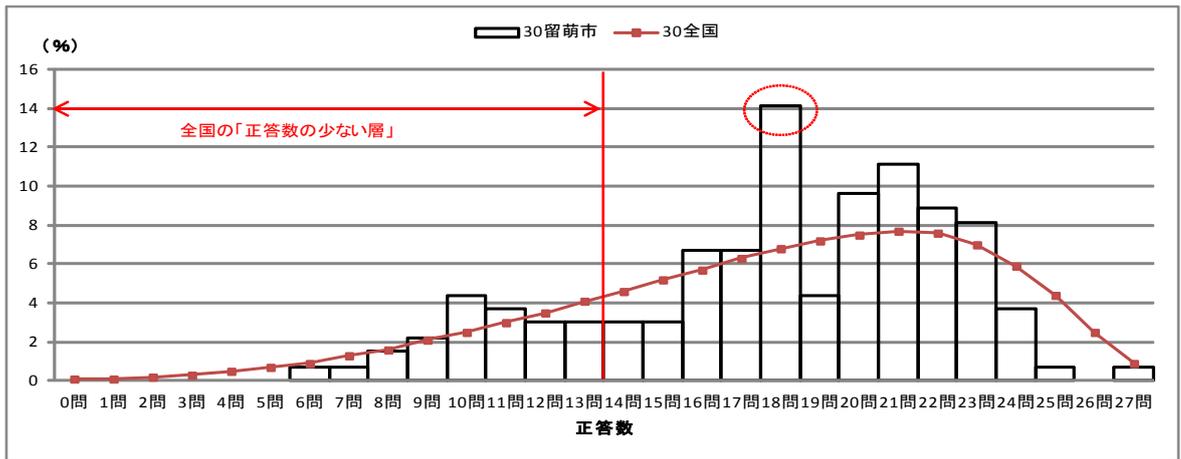
(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

- ・ 主として「知識」に関する問題については、全国と比べ相当高く、「活用」に関する問題については低い傾向にある。
- ・ 「地学」の領域において、全国と比べ低い傾向にある。
- ・ 短答式の問題については、全国と比べ相当高く、記述式の問題は相当低い傾向である。

(領域・問題別の平均正答率の状況~全国100とする)



(2) 「正答数分布」グラフの傾向



・27問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が21問に対し、18問である。

(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

(H27) 18/25問 (H30) 12/27問

②平均正答率が全国以下の設問から

枠組み・領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
「活用」 生物的領域	1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる (記述式)	52.6%	61.3%
「活用」 化学的領域	化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる	ファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる (記述式)	41.5%	49.4%
「活用」 地学的領域	植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる	部屋に見立てた容器に植物を入れて温度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる (記述式)	8.9%	19.4%

理科において、留萌市の生徒への指導にあたっては

- 自然の事物・現象の中から要因を抽出し、適切に条件を制御して観察・実験を計画することが大切で、はじめに「変化すること(従属変数)」と「原因として考えられる要因」を全て挙げ、それらの妥当性を検討する。次にそれらの要因を「変える条件(独立変数)」と「変えない条件」に整理して、実験を計画する学習場面を設定することが考えられる。
- 自然の事物・現象や日常生活で見られる化学変化を原子や分子のモデルで提示し、化学変化の前後で原子の数や種類は変化しないという知識を活用して、そのモデルを検討して改善する学習場面を設定することが考えられる。

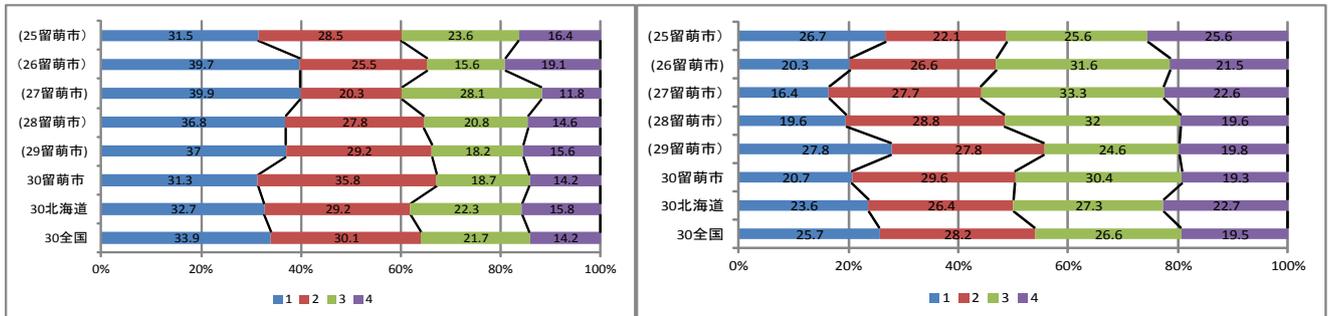
Ⅲ 質問紙調査結果の概要

※各質問項目に対するグラフの左が小学校、右が中学校である。[5の(1)、(2)を除く]

1 学習に対する興味・関心や授業の理解度等<児童生徒>

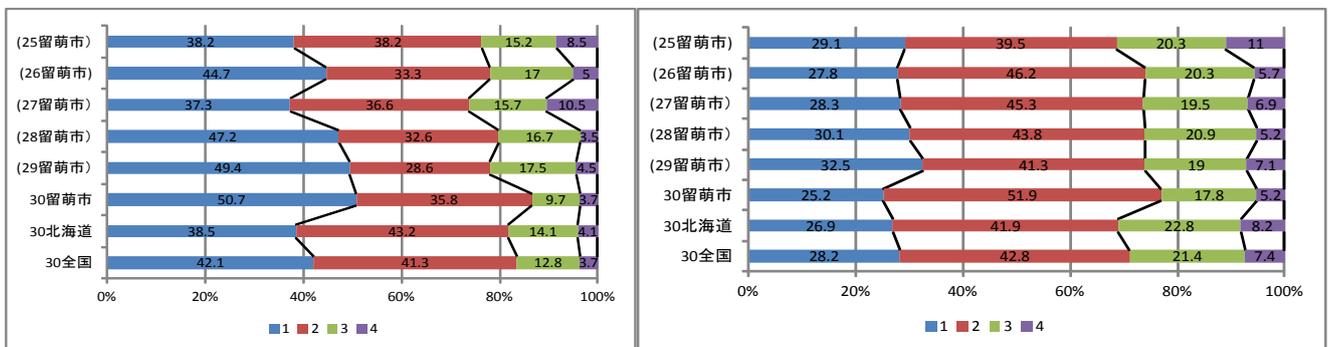
(1) 算数(数学)の勉強は好きですか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



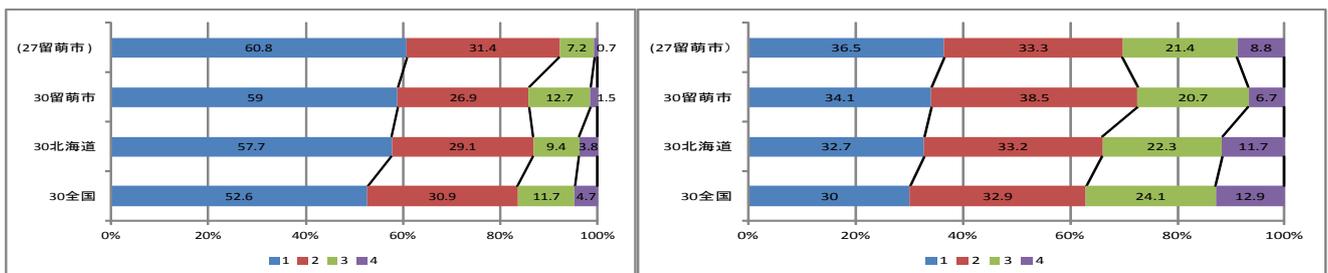
(2) 算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



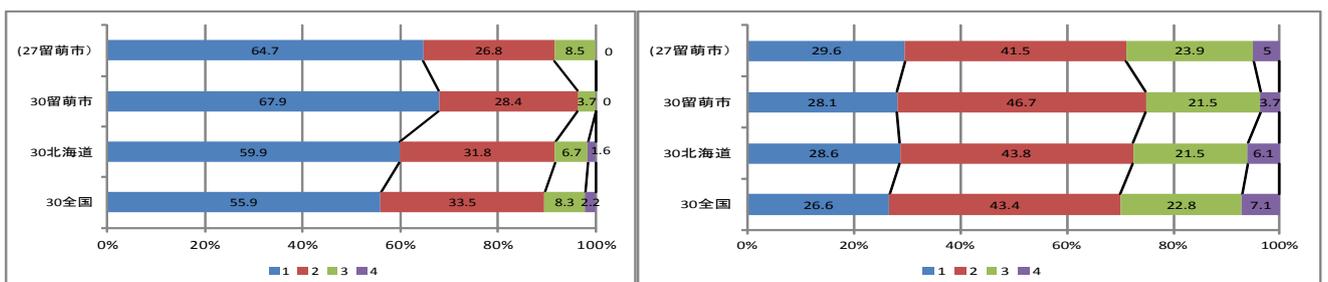
(3) 理科の勉強は好きですか

選択肢は(1)と同様



(4) 理科の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



【小学校】

- ・算数の勉強が好きである、授業の内容はよく分かると肯定的に回答した児童の割合は全国よりやや高く、特に算数の勉強が好きであるは平成27年度以降、増加傾向である。
- ・理科の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は27年度より低い。
- ・理科の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合は全国より高く、27年度よりやや高い。

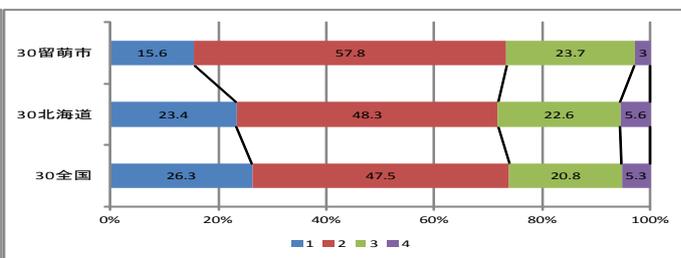
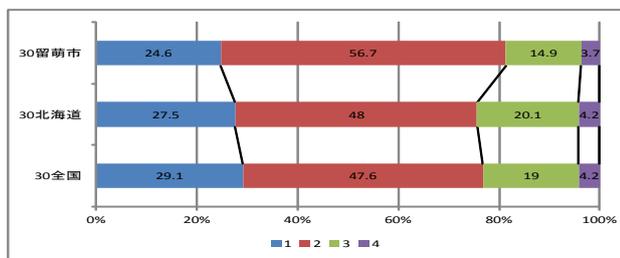
【中学校】

- ・数学の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国よりやや低く、一方、授業の内容がよく分かると回答した生徒の割合は全国より高い。
- ・理科の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は全国より相当高い。
- ・理科の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は全国より高く、27年度よりやや高い。

2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善等に関する取組状況<児童生徒・学校>

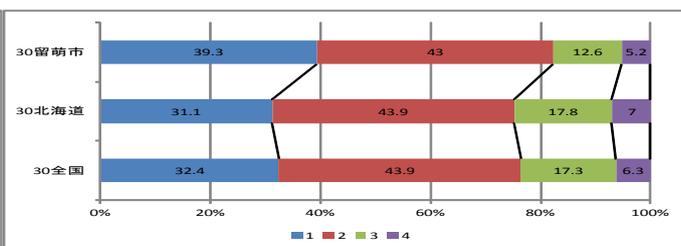
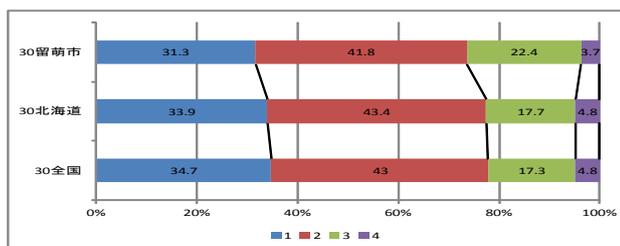
(1) 5年生までに(1, 2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思いますか (新規)

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



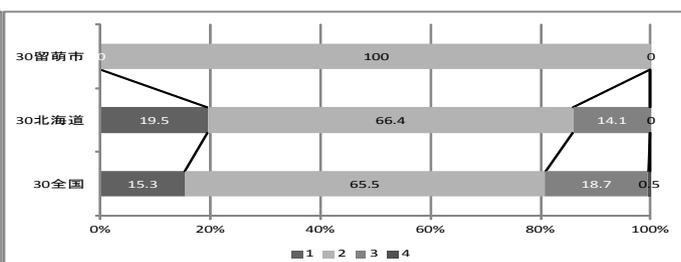
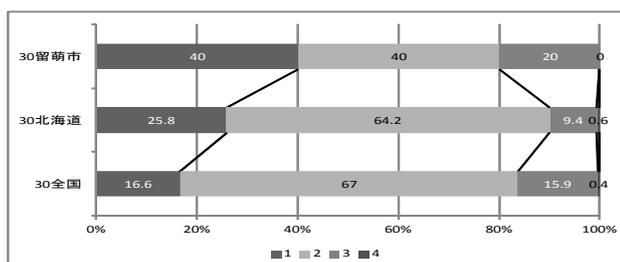
(2) 学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

- 1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない



(3) 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか(新規)

- 1 そのとおりだと思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない



【小学校】

- ・5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思うと回答した児童の割合は全国よりやや高い。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した児童の割合は全国よりやや低い。
- ・調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと回答している学校の割合は80%である。

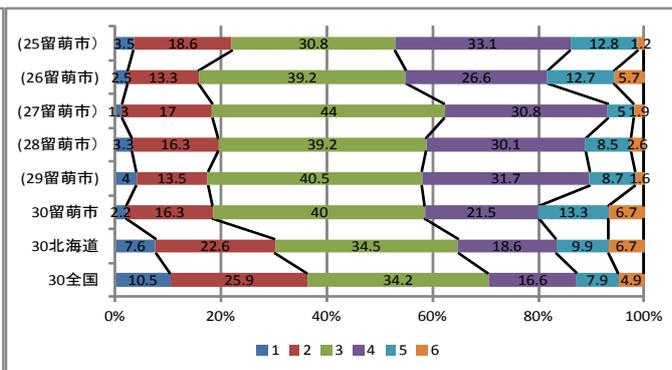
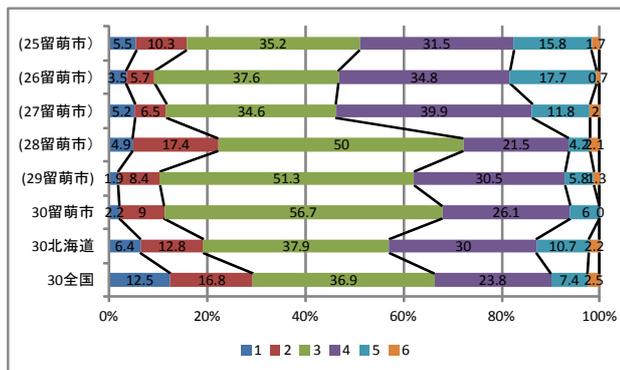
【中学校】

- ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した生徒の割合は全国より高い。
- ・調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと全ての学校が回答している。

3 学習時間等＜児童生徒＞

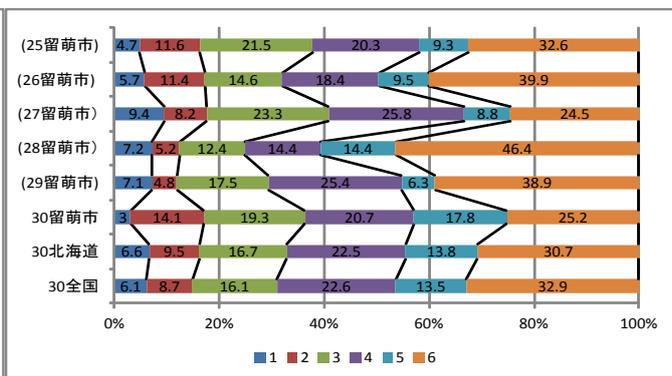
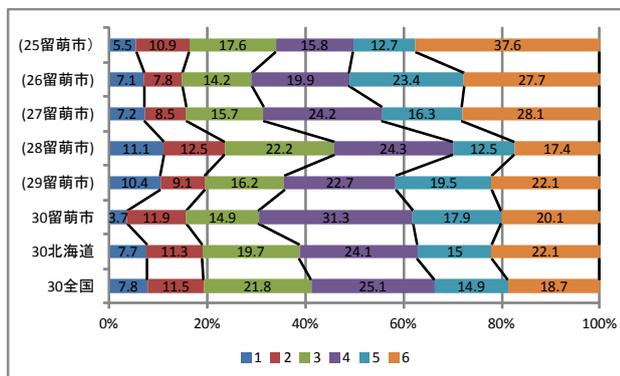
(1) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

- 1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない
4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない



(2) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

- 1 2時間以上 2 1時間以上、2時間より少ない 3 30分以上、1時間より少ない
4 10分以上、30分より少ない 5 10分より少ない 6 全くしない



【小学校】

- ・普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した児童の割合は昨年度より高い。
- ・普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書すると回答した児童の割合は全国より相当低い。

【中学校】

- ・普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した生徒の割合は全国より相当低

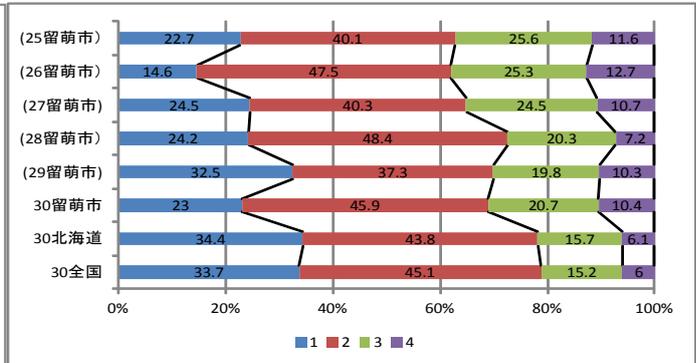
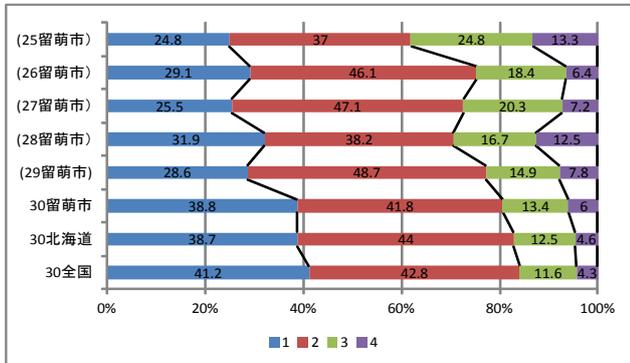
い。

- ・ 普段(月～金曜日), 1日当たり30分以上読書すると回答した生徒の割合は全国より高い。

4 規範意識、自己有用感等<児童生徒・学校>

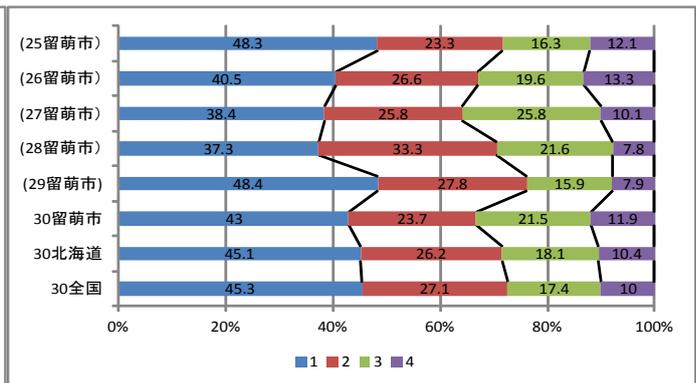
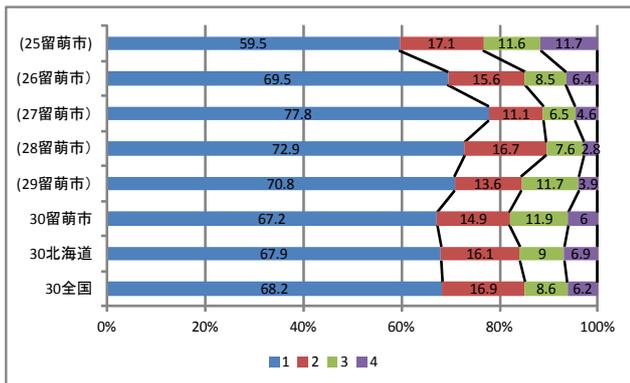
(1) 自分には、よいところがあると思いますか。

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



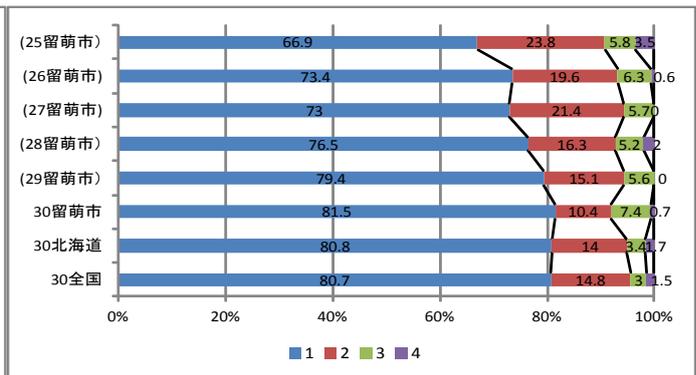
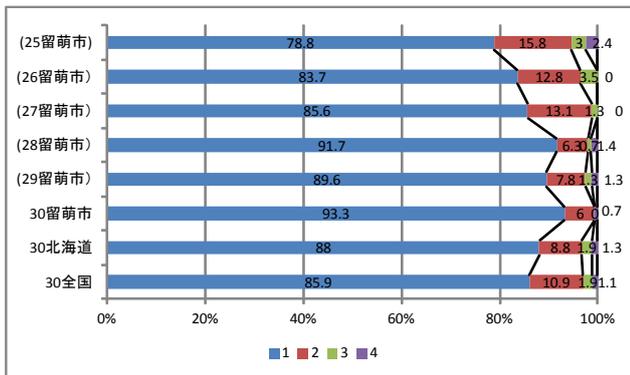
(2) 将来の夢や目標を持っていますか

選択肢は4の(1)と同様



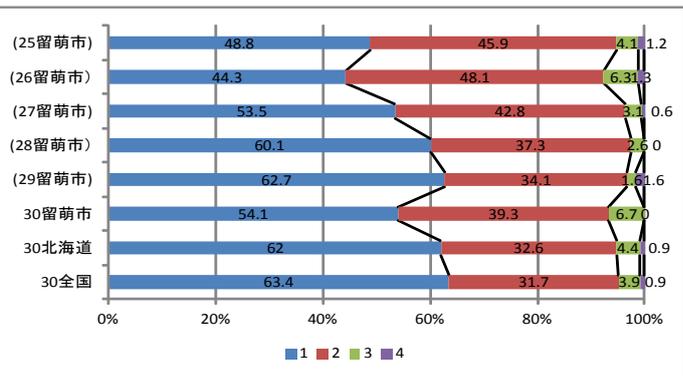
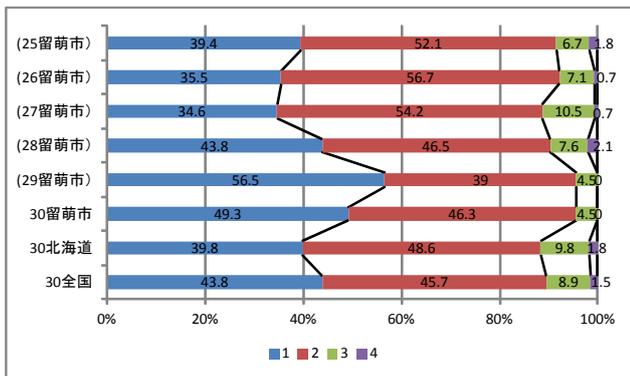
(3) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

選択肢は4の(1)と同様



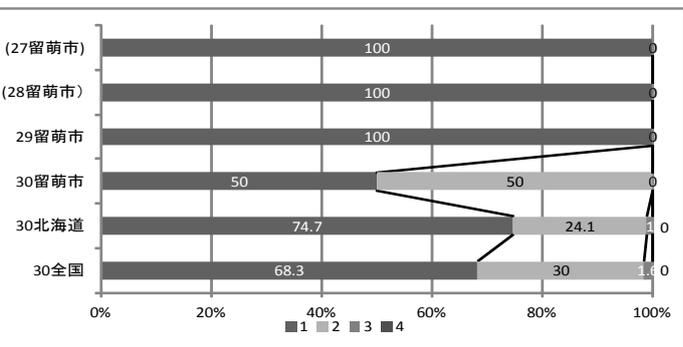
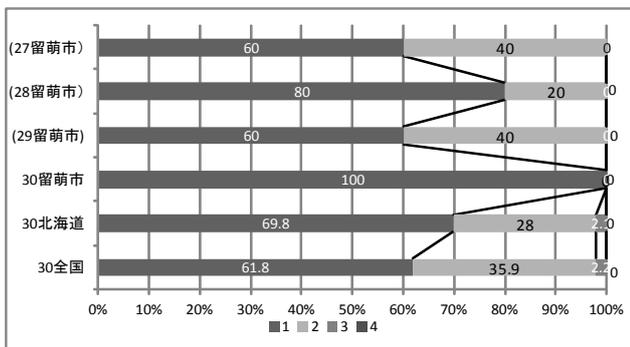
(4) 学校のきまり、規則を守っていますか

選択肢は4の(1)と同様



(5) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



【小学校】

- ・自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童の割合は、前年度より増加し、全国よりやや高い。
- ・いじめはどんなことがあってもいけないことだと肯定的に回答した児童の割合は増加傾向にある。
- ・学校のきまり、規則を守っていますと肯定的に回答した児童の割合は、全国より高い。
- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに学習規律の維持の徹底をよく行ったと全ての学校が回答している。

【中学校】

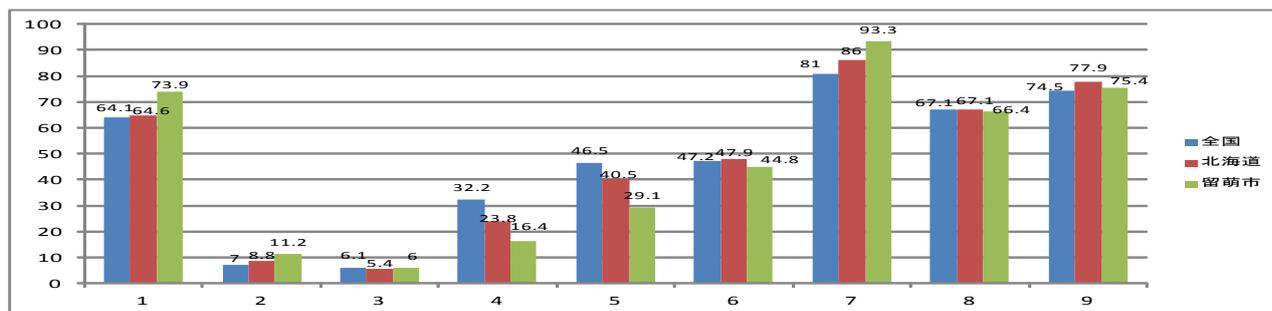
- ・自分にはよいところがあると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当高い。
- ・将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より高い。
- ・いじめはどんなことがあってもいけないことだと肯定的に回答した生徒の割合は、全国よりやや低い。
- ・調査対象学年の生徒に対して、前年度までに学習規律の維持の徹底を行ったと全ての学校が回答している。

5 基本的な生活習慣等<児童生徒>

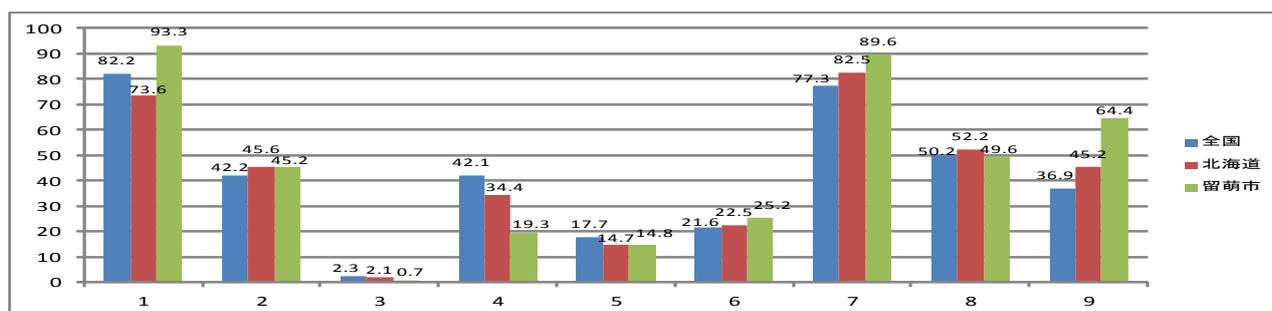
(1) 放課後に何をしておこなうことが多いですか(当てはまるものをすべて選んでください。)

- <小1> 家で勉強や読書をしている <小2> 放課後子供教室や放課後児童クラブ(学童保育)に参加している
- <中1> 学校の部活動に参加している <中2> 家で勉強や読書をしている
- <以下小・中共通> 3 地域の活動に参加している(地域学校協働本部や地域住民等による学習・体験プログラムを含む)
- 4 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している 5 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている
- 6 スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている 7 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている 8 家族と過ごしている 9 友だちと遊んでいる

(小学校)



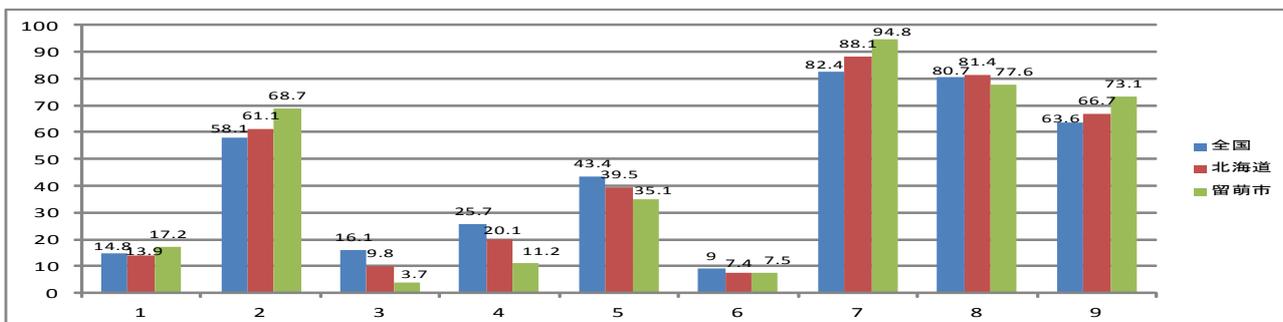
(中学校)



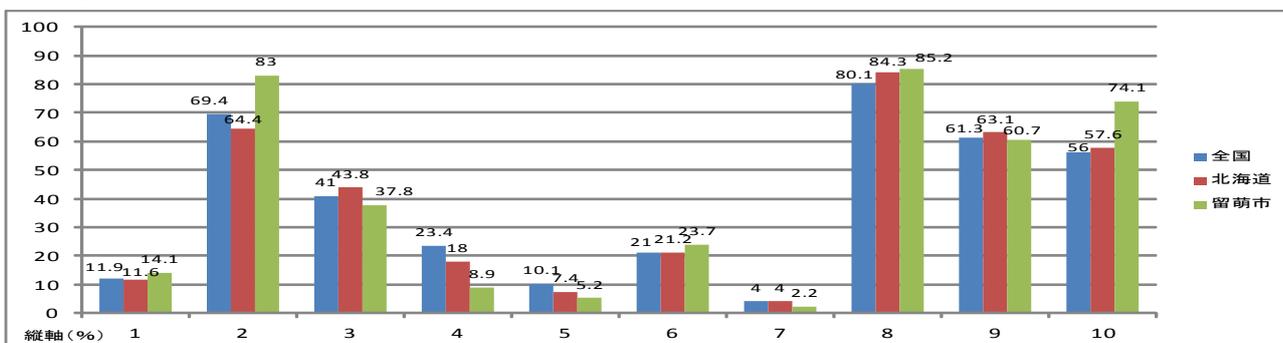
(2) 週末に何をしてお過ごしが多いですか(当てはまるものをすべて選んでください。)

- 〈小・中1〉 学校で授業を受けている 〈中2〉学校の部活動に参加している
- 〈小2・中3〉 家で勉強や読書をしている 〈小3・中4〉 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している
- 〈小4・中5〉 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている
- 〈小5・中6〉 スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている
- 〈小6・中7〉 地域の活動に参加している (学校で行われる地域住民や企業等による学習・体験プログラムを含む)
- 〈小7・中8〉 家でテレビやビデオ・DVDを見たり, ゲームをしたり, インターネットをしたりしている
- 〈小8・中9〉 家族と過ごしている 〈小9・中10〉 友だちと遊んでいる

(小学校)



(中学校)



【小学校】

- ・放課後に家でテレビやビデオ・DVDを見たり，ゲームをしたり，インターネットをしたりしている児童の割合が最も多く，全国より相当高い。
- ・週末に家でテレビやビデオ・DVDを見たり，ゲームをしたり，インターネットをしたりしている児童の割合が最も多く，全国より相当高い

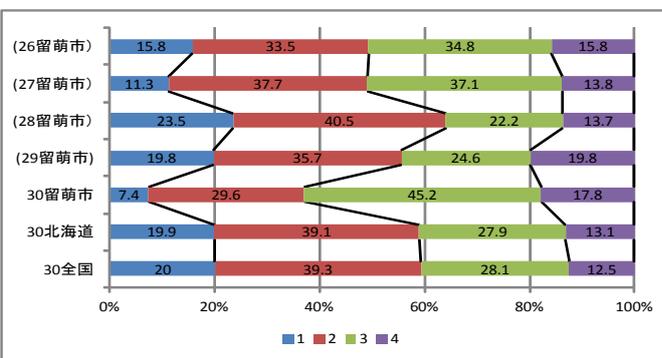
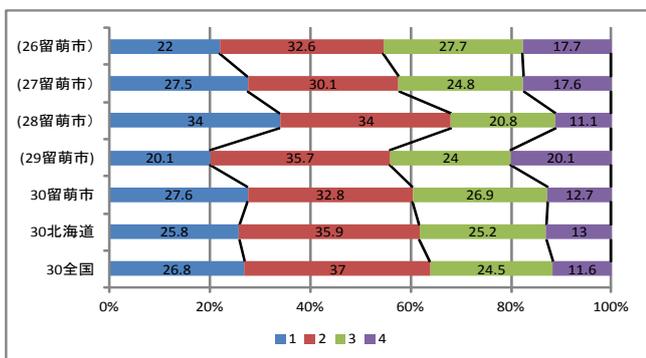
【中学校】

- ・放課後に学校で部活動をしている生徒の割合が最も多く，約93%で，全国より相当高い。
- ・週末に家でテレビやビデオ・DVDを見たり，ゲームをしたり，インターネットをしたりしている生徒の割合が最も多く，約85%である。

6 社会に関する興味・関心<児童生徒>

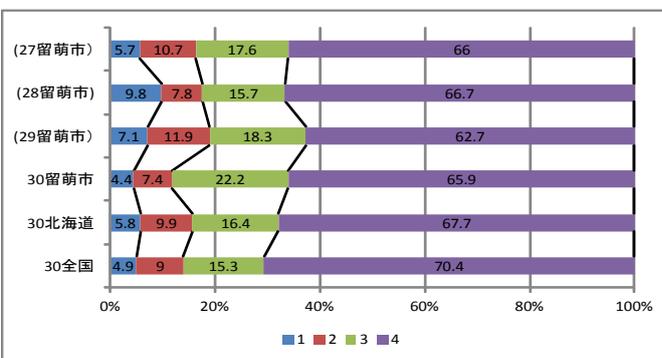
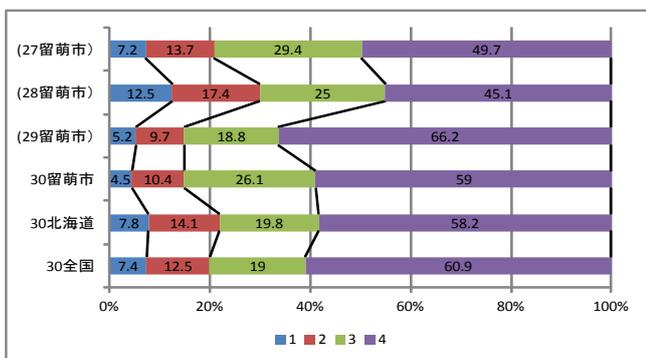
(1) 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか

- 1 当てはまる 2 どちらかと言えば，当てはまる 3 どちらかといえば，当てはまらない
4 当てはまらない



(2) 新聞を読んでいますか

- 1 ほぼ毎日読んでいる 2 週に1～3回程度読んでいる 3 月に1～3回程度読んでいる
4 ほとんど，または，全く読まない



【小学校】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に興味があると回答した児童の割合は前年度より増加し，全国よりやや高い。
- ・新聞を週に1～3回程度以上読んでいる児童の割合は全国よりやや高い。

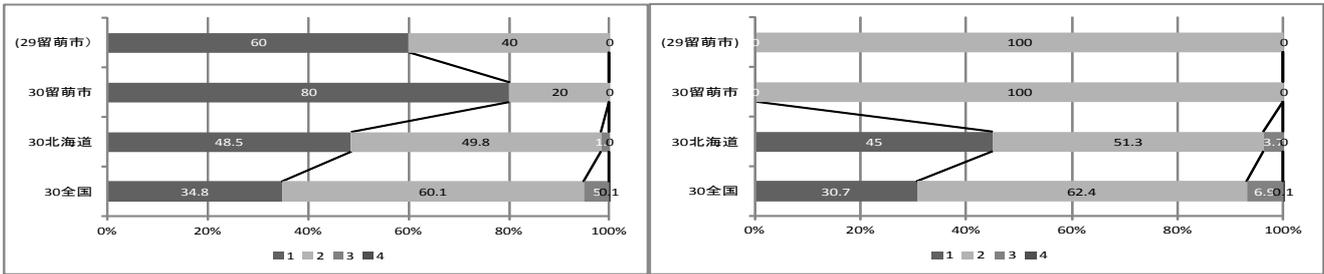
【中学校】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に興味があると回答した生徒の割合は前年度より大きく減少し，全国より相当低い。
- ・新聞を週に1～3回程度以上読んでいる生徒の割合は全国とほぼ同様である。

7 その他<学校>

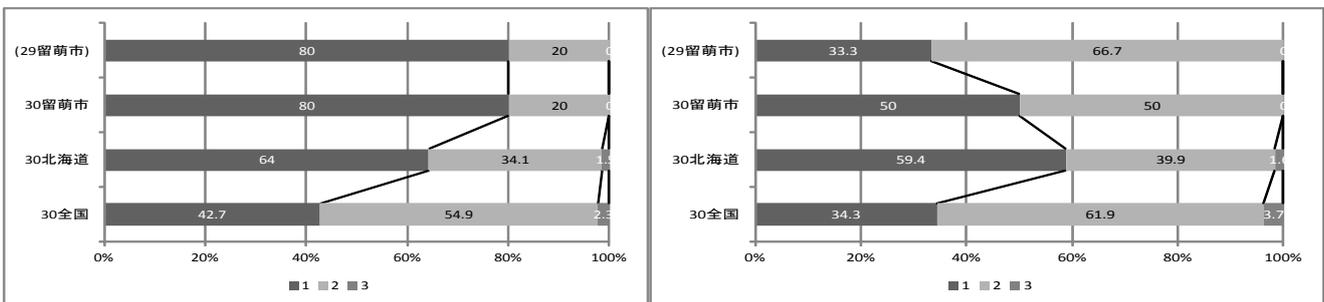
(1) 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない



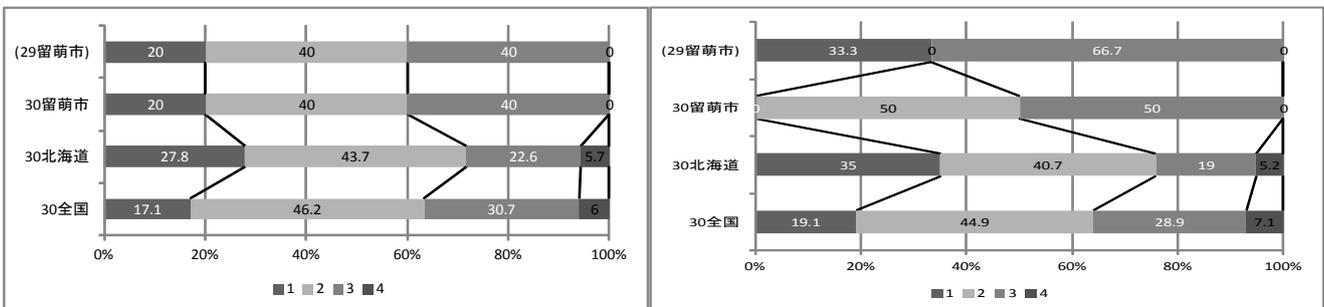
(2) 平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

1 よく行った 2 行った 3 ほとんど行っていない



(3) 平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校(小学校)と成果や課題を共有しましたか

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



【小学校】

- ・児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを全ての学校で確立している。
- ・平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために全ての学校で活用している。
- ・平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の中学校と成果や課題を共有するということがあまり行われていない学校がある。

【中学校】

- ・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを全ての学校で確立している。
- ・平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために全ての学校で活用している。
- ・平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小学校と成果や課題を共有するということがあまり行われていない学校がある。

IV おわりに

本報告書は、全国学力・学習状況調査の目的から、留萌市の児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、まとめ、報告としたものです。

また、本調査の結果は、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを十分に踏まえた上で、留萌市の学力の全体的な傾向や児童生徒質問紙・学校質問紙から見える特徴的な事項等について記載しています。

各小中学校では、児童生徒の学力向上に向けて、「学校改善プランの立案と実行」「学校で統一した授業スタイルや学習規律の確立」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「放課後や長期休業中の学習サポートの実施」「ICT機器の効果的な活用等、指導方法の工夫改善」など、様々な取り組みを推進・展開しています。その結果、今年度は小中学校合わせて10教科（A、B別）のうち、5教科が全国平均を上回り、他の教科についても近年は全国の平均正答率との差が縮まり、改善の傾向にあります。今後は特に算数(数学)の確かな学力の定着に向けた授業改善等が必要であると考えています。

一方、児童生徒質問紙・学校質問紙からは学習内容の確実な定着のために向けて、学習習慣を確立できるよう家庭学習に関する取組を充実し、効果的に進めて行くこと、また、生活習慣を確立することができるよう、時間の使い方やメディアとの関わり方等、学校と家庭、地域の共通理解のもと、連携を進めていくことが大切であることがわかります。さらに、今後は近隣の小中学校が本調査の分析結果について、成果や課題を共有し、学力向上と生徒指導の両面から9年間を見通して、小学校と中学校が連携しながら進めていくことも大切であります。

将来を担う児童生徒一人一人に「生きていくために最低限必要な学力」を身に付けさせることが、学校教育に携わる者の責務であります。留萌市教育委員会と各小中学校において、「いま目の前にいる子どもたち」の課題を改めてしっかり分析し、学校・家庭・地域が共有し、連携協働しながら目に見える改善に今後も取り組んで参りますので、ご支援・ご協力を引き続き、お願い申し上げます。